

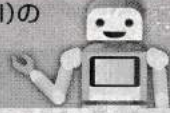
## 成長戦略



### 成長戦略に関連した主な予算

人工知能(AI)の  
研究開発

75億円



モノをインターネット  
でつないで情報をやり  
とりする「IoT」の活  
用や実証

8.4億円



小型無人機「ドロー  
ン」の導入促進、研究  
開発支援

33億円



自動走行システムの  
研究開発支援

63億円



# 先端ロボ 技術開発

成長戦略の柱として位置付けられている人工知能(AI)やロボット技術の開発費として、16年度から30億円多い75億円を計上した。「人の行動を予測するAI」や「重い物の運搬と、精密な作業を両立できるロボット制御」などの先端技術の開発を目指す。

あらゆるモノをインターネットにつなげる「IIoT」を推進する上で、コンピュータウイルスやハッキングなどの被害防止は欠かせない。このため、民

間企業のサイバーセキュリティ担当者育成する事業を新規で約12億円計上する。発電所や化学工場などへの攻撃を想定した訓練のため「模擬プラント」を設置し、研修を実施する。

電力や交通、水処理など「質の高いインフラ(社会資本)」の輸出拡大を進める。既にインドのバス交通システムや、インドネシアの液化天然ガス(LNG)プラントなどの調査を進めており、一般会計と特別会計の合計で27億円を計上した。

## 観光



観光庁関係予算は、16年度比11億円増の256億円だった。観光立国に向け、政府を挙げて外国人訪日客の誘致や旅行環境の整備などを加速させる。

長期間の滞在が見込める欧米の富裕層などを取り込むため、海外メディアや旅行会社を日本に招いて観光プロモーションを行うなど、訪日客誘致の促進費用などに94億円を盛り込んだ。また、訪日客の受け入れ環境

# Wi-Fiを整備

整備などのため、86億円を計上した。各地で公衆無線LAN「Wi-Fi(ワイファイ)」を整備するほか、観光地では、カフェや土産物店が併設された観光案内所の整備や公衆トイレの洋式化などを進める。

このほか、地方活性化の起爆剤として期待の高い大型クルーズ船を受け入れるため、地方の港湾の整備に16年度比55億円増の137億円を充てる。

地方空港の訪日客対応を進める。案内などの多言語化を進めるほか、税関や出入国管理施設の整備についても補助する。